

不当な扱いを受けた際の行動としては、「何もしなかった」がもっとも多く、「転職した・辞めた」が続く。公的機関へ相談した割合はわずか

『正社員（一般）』の4割以上（44.6%）は「何もしなかった」と答えている。その理由は「どうせ何も変わらないから」が半数以上（54.3%）。一方、『パート・契約社員・アルバイトなど』の3割（30.6%）は、「転職した・辞めた」と回答している。

全体として、労働基準監督署や都道府県労働局・地方自治体など公的機関へ相談した割合はいずれの層でも5%に満たない。

